

江口夜詩関係年譜

| 西暦 | 年号 | 年齢 | 主な事柄 |
|------|---------|----|---|
| 1903 | 明治 36 年 | 0 | 7 月 1 日岐阜県養老郡時村（現・大垣市上石津町）で生まれる。 |
| 1918 | 大正 7 年 | 15 | 時尋常高等小学校卒業。 |
| 1919 | 大正 8 年 | 16 | 海軍志願兵に応募。合格し横須賀海兵団に入団。第一期軍楽補習生として始業。 |
| 1920 | 大正 9 年 | 17 | 第一期軍楽補習生を首席で卒業。軍楽兵として舞鶴海兵団に転勤する。以後軍楽隊ではトロンボーンを担当。 |
| 1921 | 大正 10 年 | 18 | 皇太子（昭和天皇）のヨーロッパ親善旅行随行軍楽隊員として全国から選抜された 41 名の 1 人に入る。6 ヶ月間にわたりイギリス、フランス、イタリア等ヨーロッパ各国を歴訪し、本場のシンフォニーやオペラに接する。帰国後、東京音楽学校（現・東京芸術大学）に、海軍軍楽隊専属の作曲家としての将来を嘱望され、海軍省委託生として入学。2 年通学の後、さらに 4 年間特別委託生として通う。 |
| 1922 | 大正 11 年 | 19 | 日英交歓音楽会で英国軍艦「レナウン号」軍楽隊との合同演奏に参加。 |
| 1923 | 大正 12 年 | 20 | 帝国ホテルでのドボルザーク「新世界」の日本初演奏（軍楽隊）に参加。 |
| 1924 | 大正 13 年 | 21 | 音楽家としての将来に迷いを感じ、新国劇の沢田正二郎を訪ね弟子入りを志願するが思いなおして作曲の道を志す。 |
| 1925 | 大正 14 年 | 22 | 処女作「千代田城を仰ぎて」完成。開局直後のラジオ放送で発表。 |
| 1926 | 大正 15 年 | 23 | 佐藤清吉楽長渡欧送別大音楽会でのベートーヴェン「第 9 交響曲」演奏にチェロ奏者として参加。吹奏楽「By the lake」作曲。 |
| 1927 | 昭和 2 年 | 24 | 行進曲「厳かなる悲しみ（大正天皇大御行を悲しみ奉りて）」作曲。 |
| 1928 | 昭和 3 年 | 25 | 昭和天皇即位御大典供奉軍楽隊として京都へ随行。「生涯における最大の作曲であり、最大の栄誉」と自認する吹奏楽大序曲「拳国の歓喜」発表。 |
| 1929 | 昭和 4 年 | 26 | 行進曲「悲しき兵舎」作曲。「夜の愁い」でビクターレコードレコードからデビュー。 |
| 1930 | 昭和 5 年 | 27 | 「日本海行進曲」作曲。 |
| 1931 | 昭和 6 年 | 28 | 交響幻想曲「芳春」宮中で御前演奏される。「艦隊行進曲」作 |

| 西暦 | 年号 | 年齢 | 主な事柄 |
|------|-------|----|--|
| | | | 曲。海軍を退役する。ポリドールレコード専属となる。 |
| 1932 | 昭和7年 | 29 | 「哀しき口笛」「若いマドロス」「港離れて」「明日は上陸」がヒット亡き妻を偲んで作曲した「忘れぬ花」と「時雨ひととき」が大ヒットとなる。「・・・それまでシンフォニー作家として立つ理想をもっていた私は、流行歌などあまり重んじていなかった・・・人の魂を揺り動かす、それこそ本当の芸術ではないか・・・」と流行歌の作曲に生涯を打ち込むことを決心する。 |
| 1933 | 昭和8年 | 30 | コロムビアレコード専属となる。「十九の春」「護れ大空」「秋の銀座」発売。 |
| 1934 | 昭和9年 | 31 | 「希望の首途」「急げ幌馬車」「そんなお方があったなら」「曠野を行く」発売。 |
| 1935 | 昭和10年 | 32 | 「君は満洲」「ハイキングの歌」「夕日は落ちて」発売。 |
| 1936 | 昭和11年 | 33 | 「初恋日記」「花嫁行進曲」発売。「詩と音楽の世界一周旅行」と銘打ち詩人西條八十と欧州旅行を三ヶ月間をする。国民歌謡「心のふるさと」ヒット。 |
| 1937 | 昭和12年 | 34 | 「夕日のアリナレ」発売。「ふんなのないわ」が官能的という理由で発売禁止となり話題となる。 |
| 1938 | 昭和13年 | 35 | 「夜霧の波止場」発売。 |
| 1939 | 昭和14年 | 36 | ポリドールレコード専属となる。「国民音楽院」を創設。小畑実・曾根史郎・津村謙・春日八郎などの歌手を輩出。「くろがねの力」「体育大行進曲」発売。 |
| 1940 | 昭和15年 | 37 | 「月月火水木金金」発売。 |
| 1941 | 昭和16年 | 38 | 「戦陣訓の歌」発売。「流行歌歌唱法」出版。 |
| 1942 | 昭和17年 | 39 | 「ハワイ海戦」「マレー沖海戦」発売。 |
| 1943 | 昭和18年 | 40 | 海軍特別報道班員として作家 坪田譲治と南方戦線取材。 |
| 1944 | 昭和19年 | 41 | 「轟沈」「海底万里」発売。 |
| 1945 | 昭和20年 | 42 | 終戦を疎開先の滋賀県長浜で迎える。 |
| 1946 | 昭和21年 | 43 | 「緑の牧場」をNHK ラジオ歌謡として放送。「歌謡読本 歌謡の正しい歌い方」出版。 |
| 1947 | 昭和22年 | 44 | キングレコード専属となる。 |
| 1948 | 昭和23年 | 45 | 「長崎のザボン売り」「憧れのハワイ航路」発売。「関ヶ原音頭」作曲。 |
| 1949 | 昭和24年 | 46 | 「東京の青い空」「天草のパテレン祭り」発売。 |
| 1950 | 昭和25年 | 47 | NHK ラジオ「今週の明星」で「憧れのハワイ航路」と古賀政男の「湯の町エレジー」が毎週1位争いをする。「憧れのハワイ航路」を新東宝が映画化。 |
| 1951 | 昭和26年 | 48 | 「赤いマフラー」発売。 |

| 西暦 | 年号 | 年齢 | 主な事柄 |
|------|---------|----|--|
| 1952 | 昭和 27 年 | 49 | ラジオ東京「素人うた合戦」にレギュラー審査員としてとして出演。「赤いランプの終列車」発売。 |
| 1953 | 昭和 28 年 | 50 | 「湯の町月夜」発売。 |
| 1954 | 昭和 29 年 | 51 | 「瓢箪ブギ」作曲。 |
| 1955 | 昭和 30 年 | 52 | 連続ラジオドラマ「歌謡物語 江口夜詩篇 流す涙も」放送。「裏町ピエロ」発売。「江口夜詩作曲生活 30 周年郷土訪問大演奏会」を大垣スポーツセンター、岐阜市民センターで開催。市内をパレードする。 |
| 1956 | 昭和 31 年 | 53 | テレビ「歌謡日記・江口夜詩の巻」に出演。日本歌謡学校を設立開校。「オリンピックの歌」発表。「浮草の宿」「トチチリ流し」発売。「浮草の宿」を日活が映画化。 |
| 1957 | 昭和 32 年 | 54 | 日本歌謡学校開校 1 周年祝賀パーティーを開催。 |
| 1958 | 昭和 33 年 | 55 | 東芝レコードに専属入社。王子歌謡学校開校。「赤いランプの終列車」を日活が映画化。 |
| 1960 | 昭和 35 年 | 57 | 日本グラモフォンに専属入社。元岐阜市長・松尾吾策氏作詞「松籟」作曲。「江口夜詩氏レコード生活 30 周年祝賀会」東京丸の内東京会館で開催。日本歌謡学校を渋谷区に移転「江口夜詩歌謡学院」に改称。 |
| 1961 | 昭和 36 年 | 58 | テレビ「夫と妻の記録 高橋掬太郎」に友情出演。森繁久弥朗読「城一舞踊抒情詩のこころみ」発表。 |
| 1962 | 昭和 37 年 | 59 | テレビ「歌う回転木馬・江口夜詩傑作集」に出演。「雪姫のうた」(テレビ「白鳥の騎士」主題歌発売。専属をやめフリーとなる。 |
| 1963 | 昭和 38 年 | 60 | 病に倒れる。以後 15 年の闘病生活。 |
| 1968 | 昭和 43 年 | 65 | 江口浩司編曲「あなたの気分が分かるなら」発売。 |
| 1969 | 昭和 44 年 | 66 | 「全国養護学校校歌」と元愛知県知事(桑原幹根)詞「みんなであらう」作曲。 |
| 1970 | 昭和 45 年 | 67 | 「上石津町青少年歌」「上石津町音頭」を口述で作詞作曲。上石津町自治功労者となる。 |
| 1971 | 昭和 46 年 | 68 | 愛知県知事(桑原幹根)作詞「裾野の朝」「蓼科高原の夏」発表。 |
| 1972 | 昭和 47 年 | 69 | 上石津町立時小学校校歌「仰ぐ烏帽子の」作曲。 |
| 1974 | 昭和 49 年 | 71 | 上石津町名誉町民となる。 |
| 1978 | 昭和 53 年 | 75 | 12 月 8 日午後 6 時 30 分府中市慈恵医大第 3 病院で没。世田谷の大吉寺で葬儀。墓所は東京の法照寺。上石津町主催の追悼式を行う。 |